

新しい救助工作車が始動



車両データ	
全長	7.72メートル
全幅	2.42メートル
全高	3.35メートル
総重量	11.6トン
乗車定員	5人
エンジン	ディーゼルエンジン

消防署に新しい救助工作車が配備されました。約1カ月にわたり取り扱い訓練を重ね、2月23日から運用を開始します。最新の資機材を備えた救助工作車、普段はなかなか見られないその中身を紹介します。

【問】消防本部警防課 ☎304・0144

救助工作車

特別救助隊が使用する消防車の一種です。火災時のほか、交通事故で車内に閉じ込められた場合や自然災害時など、救助を必要とする時に駆けつけて活動します。救助工作車は年間約120回出動しています。

特別救助隊

通称：レスキュー隊

救助工作車を扱うレスキュー隊は、人命救助のために働く専門部隊です。消防士となったあと、さらに消防署の中から選抜され、専門の知識と技術を身につけた部隊です。あらゆる災害現場での救助に対応するため、日々訓練を積んでいます。市では20人の隊員が活動しています。

レスキュー隊長に聞いた

コロナ禍での救助活動

傷病者がコロナに罹患またはその疑いがある場合は、通常の装備に加えて感染対策をするので、その分時間がかかり、動きにくくなります。また、接触する隊員の人数を制限するため、隊員1人にかかる負担が大きくなるなど、今までとは違う苦勞があります。

電動油圧救助器具



車の中に閉じ込められた人を救出する場合などに使用。車のドアを外したり、切断するパワーがあります



資機材は、すぐに取り出せるように整理して収納。車両の反対側にも用途の異なるさまざまな資機材を積んでいます

はしご



車の上に備え付けられていて、地上約8メートルの高さに届きます

クレーン



最長約9メートルのクレーンは、角度を自在に動かすことができます



状況に応じた言葉を表示

車内



隊員が乗り込む車内は、ワイルドハイパー車にすることで空間を最大限確保。身長191センチメートルの隊員がまっすぐに立てるスペースがあります。車内で防護服などへの着替えができ、今まで以上に迅速な対応が可能

ウインチ



車両前には5トンの重さを引っ張ることができるウインチ装備。車両後ろにもウインチがあり、10トンまで対応できます



【コンセプト】多様性に富んだ特別救助隊

Diverse Special Rescue

化学物質や放射性物質などの目に見えない物質も含んだ災害（NBC災害）や水難救助などにも効果的に対応するため、これに特化した資機材を搭載しています。